

【学校教育目標】
未来をきり拓く碓井っ子の育成

【本年度の重点目標】
学力の向上を図る。(基礎学力の定着・対話を通して学ぶ授業)
人間関係力の育成を図る。(あいさつ・人とつながる言葉や行動)
不登校の未然防止と早期発見・解決を図る。

領域	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
学校経営及び学校組織	校内組織運営の充実	1-1 本年度の重点目標を意識して取り組みを行っている。 〈結果〉AB評価:88% 定期的を実施する評価活動の内容を本年度の重点目標に整合させて作り替え、実施してきた。	3.1 コロナ禍、学校建設のあわただしい中、子どもたちの感染防止対策等々の中、重点目標に取り組まれている全ての先生方に感謝します。	<input type="checkbox"/> 「これだけは全員でやり遂げる」ということをさらに明確にし、確実な実行により成果を喜びあえる協働体制づくりを継続する。
		1-2 校務分掌で担当する具体策を実行できた。 〈結果〉AB評価:82% 年度当初に係ごとの年間行動計画を立てて分掌部会ファイルを作成し、それに基づき実行してきた。	3.1 取り組みを継続すること。	<input type="checkbox"/> それぞれの組織における取組のねらいを共有し、具体策のさらなる具体化、役割の明確化を推進する。
		1-3 CAP-Dサイクルにより、取組を振り返り改善につなげた。 〈結果〉AB評価:52% 月に1回の校務分掌部会において、CAPシートをもとに評価・改善を可視化してきた。	2.6 取り組みを継続すること。	<input type="checkbox"/> 「CAP-Dシート」の活用を継続する。教育指導計画書の計画を改善しながら実施していく。
		1-4 学年部会、学年会での話し合いは充実している。 〈結果〉AB評価:100% 週に一度、学年部会・同学年会を設定してきたことで、情報や成果、課題の共有が図られてきた。	3.6 取り組みを継続すること。	<input type="checkbox"/> 子どもを中心に据えた取組について話し合ったり、振り返ったりすることが日常的にできている。取り組みを継続していく。
		1-5 いじめ問題には、組織的に対応できている。 〈結果〉AB評価:100% いじめ問題には特に気を配り指導の徹底を図ってきた。いじめ問題対策委員会を核として、日常的に情報共有し、組織的に対応してきた。	3.2 登下校時の子供たちの元気な姿、明るい姿があります。グループでわいわいする姿、委員会の先生方に感謝します。	<input type="checkbox"/> 「SOSの出し方」教育を実施する。 <input type="checkbox"/> 保護者とともに学ぶ時間を設定する。 <input type="checkbox"/> 日常的な取り組みを継続する。
	総合所見	生徒指導委員会も定例実施でき、不登校・不登校兆候の児童についての共通理解を進めることができた。各部の推進については、CAP・Dシートにより取り組みの進捗を確認しながら進めてきた。来年度も取組を継続する。		
学力の向上	学習活動づくり	2-1 基礎基本の徹底を図るため、形成的評価を生かして取り組んだ。 〈結果〉AB評価:82% 低中高に配置している指導方法工夫改善担当者を中心に、一人も取り残さないことを目指して取組を進めることができた。	3 資料を見ると全国平均に届いている。よくここまで取り組み、児童も頑張っているのだと思う。学力向上のため、日々研修・研究されていると心より感謝します。時々遅くまで電気がついています。	<input type="checkbox"/> 共通実践が進み、成果がみんなで共有された。取り組みを継続する。
		2-2 わかる授業づくりのため、分割授業やTT授業の効果的な実施に努めた。 〈結果〉AB評価:76% 習熟度に応じた分割授業を実施した。その成果の見取りを、学級平均点ではなく、一人一人の点数で見えるようにした。	2.9 「何で毎日立っとうと」の話で、2年生の教室へ話をしっかり聞いてもらいました。皆さんからの質問もありました。明るく元気ではきはした2年生の皆さんでした。	<input type="checkbox"/> 共通実践が進み、成果が得られた。個別最適な学習の構築に向け、実践を継続する。
		2-3 考える授業づくりのため、書いたり交流したりする場を多く設定した。 〈結果〉AB評価:64% 研究テーマに「対話」を位置づけ実践した。嘉麻市研究発表会ではその成果を公開し、一定の評価を得られた。	2.9 研究発表会で評価が得られたとのこと、先生たちが日々研究され努力された結果の現れです。保護者としても地域としても誇りに思います。	<input type="checkbox"/> 協働的な学びの姿を校内で共有し進めることができた。市内の学校に向けて、実践の内容を子どもの姿で発信できたことが大きな学びとなった。継続する。
		2-4 家庭学習の習慣化に向けた取り組みを継続した。 〈結果〉AB評価:100% 提示する課題を個に応じた内容と量にできるよう配慮してきた。	3.2 迎えの車が来る間、集合場所で宿題をしている子が何人かいます。	<input type="checkbox"/> それぞれの課題に向き合うことができるような家庭学習になるよう、工夫していく。
		2-5 地域の「ひと・もの・こと」を授業で活用した。 〈結果〉AB評価:35% コロナが小康状態にあった時期には、積極的にGTを呼んだり地域に出かけたりすることができた。それ以外は、控えざるを得なかった。	2.1 5年生の米づくり体験、皆さんの頑張りでも立派でおいしい一等米ができました。「食」の大切さを学ぶこともできました。先生たちに感謝です。	<input type="checkbox"/> ふるさと学習のカリキュラムを実践していく。
	総合所見	学力向上推進委員会を中心として、短期検証改善サイクルを循環できた。学力点数の向上に伴い、CD層の子どものやる気も高めることができた。データをもとにした取り組みを継続する。		

人間関係力の育成	人間関係づくり	3-1 気持ちの良い挨拶ができるように指導した。 〈結果〉AB評価:88% 児童会が中心となり強化週間等を設定して取り組むことができた。	3.2	誰に対しても丁寧に元気よく挨拶できるようになってほしい。元気よく挨拶ができています。警察や工事の人たちにも挨拶しています。工事の人たちも微笑んで挨拶をしています。元気でいい子たちですねと。	□挨拶を交わすことが特別で事ではなく、常態化できるような取組の工夫をしていく。
		3-2 人とつながる言葉や行動をとれるように指導した。 〈結果〉AB評価:94% 児童会が中心となり「ほわほわことば」の取り組みを継続実施できた。子ども同士での評価活動も実施された。	3.1	5年生が1年生に大縄とびの跳び方を教えるなど、学年を超えて仲よく遊んでいる姿をよく見かけて感心した。見守りありがとうございますと言葉をかける子もいます。止まってくれた車に頭を下げる子もいます。ドライバーもにっこり。美しく和やかで明るくなります。	□教師側のねらいと児童会の活動をマッチさせた取り組みを継続していく。
		3-3 ルールやマナーの大切さを考えさせ、守れるように指導した。 〈結果〉AB評価:100% 小さな問題を見逃さずに対応するよう心掛けてきた。同学年や近接学年での情報共有と綿密な対応に努めた。	3.2	手伝えることがあれば、言ってほしい。子どもたちの姿勢や態度がよくなった気がします。学校でしっかり学んでいる現われです。	□複数の目で子どもの様子を気にかけて、少しのことで情報共有できるような教師集団をめざすよう、継続する。
		3-4 人権教育推進の視点を意識し、自分も人も大切にするように指導した。 〈結果〉AB評価:100% 学級経営において人権尊重精神の涵養を意識的に取り組んでいる。LINEやネットゲームにおけるトラブルがあった。	3.1	まず自分自身を大切にしないと他人には優しくできない。自分のことを少しでも好きでいられれば人のことも大事にできる。	□人権学習や日常的な人権教育を継続する。学習していることと身近な事象とをつなげて行動化しているのかどうかをつぶさに見ていく。
		3-5 善悪が判断できるよう、良いことは誉め悪いことは毅然と指導した。 〈結果〉AB評価:94% 誉めることに努めてきた。子どもたち同士での認め合いも意識して取り組ませてきた。	3.2	ほめて伸ばすことが大事。教師も保護者も小さなことを見つけて誉めるとよい。 下校中、田の水止め板をはずしたり、道路でかんけりをしたりする子がいなくなりました。指導のおかげです。	□教師側のねらいを明確にし、誉める・認めるを適切に行うように継続する。
総合所見	6年生が最上級生としての意識を高め、児童会を中心とした活動を展開した。コロナ禍で行事ができない状況の中、工夫してみんなで楽しめる活動をたくさん生み出していくことができた。言葉遣いのトラブルを全校の課題ととらえ、みんなで考えあう学習ができた。				
不登校の解消	環境づくり	4-1 学級が安心・安全な居場所となるように学級経営を行った。 〈結果〉AB評価:94% 1人1人が教室で自己存在感を味わうことができるように取り組んでいる。発達段階に応じて、学級での取り組みを進めている。	3.3	子どもの存在価値をしっかり高めてほしい。学校に居場所をつくり、丁寧に対応していくこと。とてもいい環境づくりがなされている。校舎建設で発生する音で、勉強に集中できるか心配。	□人権教育の視点を意識して、自己存在感や自尊感情を高める取り組みを継続する。
		4-2 理由が不明な遅刻や早退について、適宜、指導・支援した。 〈結果〉AB評価:94% 毎朝、昇降口での健康チェックを実施し、遅刻や欠席者を職員室のホワイトボードに書き込んで共有している。	2.9	ありがとうございます。毎朝の健康チェック大変な仕事です。子どもも保護者も安心します。遅刻者欠席者のチェックのおかげで遅刻者が少なくなったようです。	□毎日、欠席や遅刻の理由を聞き取り、対応していくことを継続する。ケースによっては、福祉側からのアプローチも必要であるので、関係機関との連携も図っていく。
		4-3 問題の早期発見のため、子どもの言動を気にかけて、話をよく聞いた。 〈結果〉AB評価:94% 朝の健康観察の時から一人一人の様子を観察し、担任だけでなく多くの目でSOSを見逃さないよう努めた。	3.1	担任1人に任せずにいろいろな目で子どもを見ていくことが大事。健康観察、保護者にとってもありがたいことです。休み時間は運動場で元気に走り回っている姿が見られます。	□担任はもとより、子どもが相談しやすい教員を動員して話を聞くようにしてきた。また、話を聞いたり対応したりする場合、教員の年齢構成や経験年数にも配慮していくことが必要である。
		4-4 気になる事は、保護者と話したり関係機関につないだりした。 〈結果〉AB評価:76% 担任は保護者と日常的に連絡をとっている。気になる事は同学年や担当の係、管理職、関係機関を含めて組織的に対応している。	2.9	コロナ禍で、保護者との接点が少ない。連絡帳や電話などで丁寧にお互いの関係性を築く必要がある。	□日常的に同学年部会や同学年会のメンバー同士の情報交換が盛んにおこなわれている。その中で課題の共有や対応策等を協議していくことができています。継続する。
		4-5 出欠の状況を把握し、学年で話したり対策委員会に提起したりした。 〈結果〉AB評価:94% 週に1回のマンツーマン会議を立ち上げ、対策を練っている。適宜、教育委員会とも協議し、指導を仰ぎながら改善策を検討している。	3.1	コロナ禍で、学校を休みがちな子どももいる。その子たちのフォローをよろしく願います。体調管理と勉強と忙しいと思いますが、頑張ってください。	□取り組みを継続する。
総合所見	学校、保護者、地域、関係機関との連携を強化し、誰一人取り残さない教育活動の展開を充実させていく必要がある。「福岡県不登校児童生徒グランドデザイン」等も参照しながら、柔軟に取り組みを改善する方向をもつ。また、カスタの持ち帰りやオンライン授業の提供等、進めてきたことを温め継続していく。				